

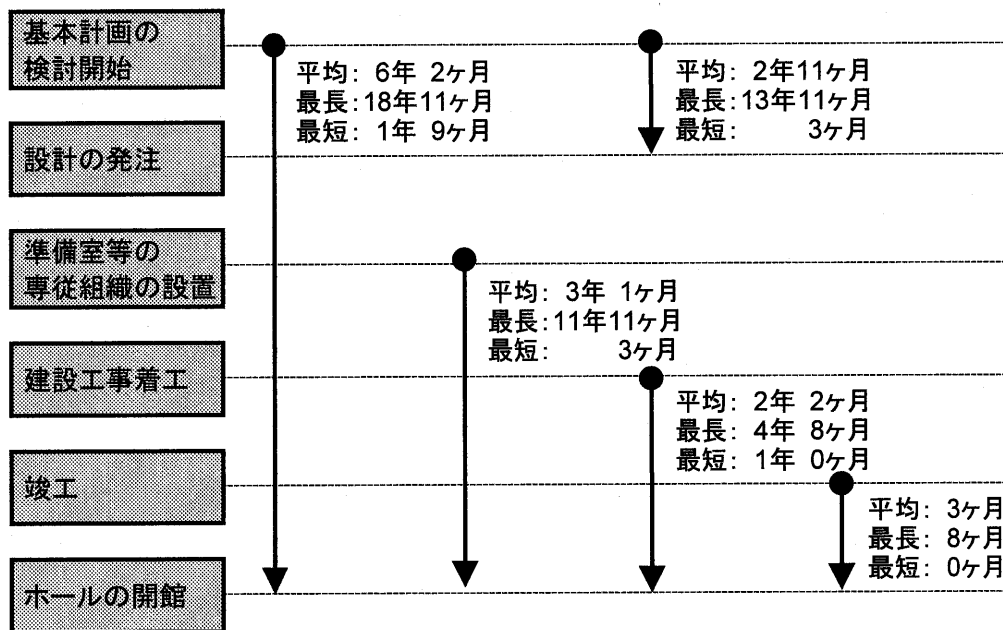
1. 計画のスケジュールと基本方針の検討

ここではまず、アンケート結果に基づいて、ホールの計画開始から開館までの計画スケジュール、そして、ホールの設置目的や基本方針の決定について現状を整理してみよう。

(1) ホールの計画スケジュール

ホールの基本計画の開始から、設計の発注、準備室等の専従組織の設置、建設工事の着工、建物の竣工、そしてホールの開館までのスケジュールを、アンケート調査の結果に基づいて整理したのが下図である。

Q1. ホールの計画開始から開館までのスケジュールをご回答ください。



① 「基本計画の検討開始」から「ホールの開館」まで

- 「基本計画の検討開始」から「ホールの開館」までの平均期間は6年2ヶ月であり、最も長いホールでは18年11ヶ月、最も短い事例では1年9ヶ月となっている。
- この期間が10年を超える事例は11件、アンケートに回答したホールの1割近くを占めているが、それらの施設は、都市再開発事業の一環として開発されたもの、大規模な県立の文化施設、大規模な複合文化施設などが中心となっている。
- 一方、この期間が2年未満のホールも3件ある。

② 「基本計画の検討開始」から「設計の発注」まで

- 「基本計画の検討開始」から「設計の発注まで」の平均期間は2年11ヶ月である。
- 設計の着手まで10年前後を要した施設は5件あるが、そのうち、都市再開発事業の一環として計画されたホールは3件で、都市再開発事業の一環としてホールを整備する場合、設計着手までの期間が長くなる傾向にある。

- 一方、回答数98件の4分の1にあたる24件のホールでは、設計開始までの期間が1年以下で、そのうちの7件は半年以下、最も短いところは3ヶ月(2館)であった。

③ 「準備室等の専従組織の設置」から「ホールの開館」まで

- ホールの専従組織が設置されてから開館までの期間は平均で3年1ヶ月、最も長いところでは11年11ヶ月を要しているが、これはやはり都市再開発事業の一環として整備されたホールである。
- この期間の最も短い例は3ヶ月で、その他にも4件の施設で開館まで半年を切っただけから準備室が設置されるなどのケースもある。

④ 「建設工事着工」から「ホールの開館」まで

- 建設工事の期間は、建物の規模に比例するものと考えられるが、アンケート調査に回答のあった98ホールの平均値は2年2ヶ月である。
- 最も長いところでは4年8ヶ月を要しているが、この例は駅ビルの中に複合施設として建設されているためと思われる。一方着工から開館まで1年のホールも1件あった。

⑤ 「竣工」から「ホールの開館」まで

- 「竣工」から「ホールの開館」までの期間は平均で3ヶ月である。
- アンケートに回答したホール121館のうち、竣工から開館までが1ヶ月以下のホールは32館で4分の1、そのうち竣工から開館まで0ヶ月、すなわち竣工とほぼ同時にオープンしたホールの数は11館にもものぼっており、この種の施設の利用上の安全を考えると、相応の時間は確保しなければならない。
- なおアンケート回答事例の中で、この期間が最も長かったのは8ヶ月(2件)である。

以上、ホールの計画スケジュールについて、アンケート結果から5つの期間を取り上げて分析したが、計画の検討、運営体制の整備、開館準備などに必ずしも十分な期間が取られていないケースもあり、計画スケジュールの検討と設定は、ホールの計画づくりにとって重要な要件であることがわかる。

(2) ホールの設置目的

- アンケートの結果から、ホールを設置した背景、経緯、目的をみると、「地域の芸術文化活動を振興するため」が100件(78.7%)と最も多く、「市民や地元文化団体から要望があったため」75件(59.1%)、「優れた音楽や演劇、ダンス等を市民に提供するため」53件(41.7%)、「都道府県や市町村の長期計画に基づいて」49件(38.6%)と続く。
- 「その他」回答としては、市街地再開発事業の中心施設として(4件)、県などの上位計画の一部として(4件)、生涯学習の拠点施設として(3件)、中心市街地の活性化のため(2件)、役所、病院等の跡地利用として(2件)が複数回答としてあがっている。